

# だいいこく通信 第三十一号 「秋の号」

いあつて

日頃より当神社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。

今年の夏は雨が多く、天気が荒れることが何度もありました。特に、七月十八日には、東京の一部でこれまでにみたことのないほど大粒の雹が大量に降りました。当神社でも境内のサクラやイチヨウが雹の直撃を受け、葉がすっかり落ちてしまいました。その後、八月に入ってもすっきり晴れる日がほとんどなく、夏らしくない陽気が続きました。このところ、ようやく秋らしい気候に変わり、ほっとしているところです。

社報「だいいこく通信」第三十一号をお届けします。

今回の内容は催し物のご報告とご案内、神社にまつわる豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、そして、オリジナル・キャラクター（の仲間たち）が活躍する連載まんがなどです。

今後ともなにとぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

大國神社 宮司 大島資生



## 大國神社の今

○第三回だいいこくクラシックスを開催します

今回も小林久美さん（東京都交響楽団）をお迎えしてヴァイオリン・リサイタルを開催します。昨年の第二回では、有名な「シヤコンヌ」を含むバッハのパートイータ第二番を中心に、心のもった演奏を披露してくださいました小林さん。今回はどんな世界を聴かせてくださるでしょうか。どうぞご期待ください。



第三回だいきくクラシックス

## 小林久美ヴァイオリン・リサイタル

日時 平成二十九年十月七日(土) 午後三時より

会場 大國神社拝殿(JR山手線駒込駅北口正面)

曲目

J・S・バッハ／無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第三番

イザイ／無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第二番より

河野芳春編曲／無伴奏ヴァイオリンのための愛唱歌選

小林久美さん プロフィール

東京芸術大学卒業。これまでに田中千香士、大谷康子、景山誠治の各氏に師事。第37回全日本学生音楽コンクール東日本大会にて奨励賞を受賞。京都フランス音楽アカデミー、霧島音楽祭等に参加。平成27年より毎年駒込大國神社にてリサイタル開催中。現在、東京都交響楽団第2ヴァイオリン副首席奏者。

## お宮あれこれ「かななづき」

今月は十月、古い月の名前では「かななづき」と呼ばれます。今回はこのことばについてお話しいたしましょう。

「かななづき」は本来「かみなづき」と言っていたのが変化した言葉です。

「な」は奈良時代の言い方で、現在の「の」に当たり、現在は使われなくなっていますが、「まなこ」「まなざし」などの言葉の中に痕跡が残っています。

「まなこ」は「目(ま)の子」という意味、同様に「まなざし」は「目の差し」という意味でしょう。

というわけで「神・な・月」で「神の月」という意味です。平安時代の『古今和歌集』に収められた紀貫之の歌に、次のようなものがあります。

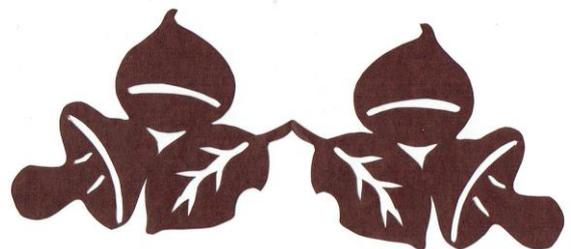
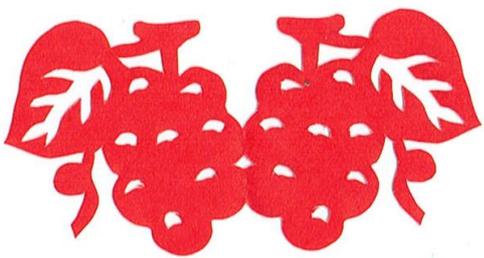
きみがさすみかさの山のもみぢばのいろ  
かみな月しぐれの雨のそめるなりけり

〈紀貫之〉

古今和歌集・雑体・一〇一〇

〔解釈〕あの上笠山の紅葉は真っ赤な紅葉。それは十月の時雨が染めたのだったよ。」

これは旋頭歌という和歌の形式で、「五七七・五七七」という形をしています。



それではなぜ十月が「神の月」と呼ばれるようになったのでしょうか。

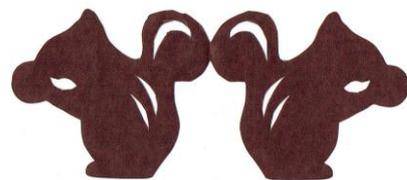
その年最初に収穫された稲をご神前に奉納する行事があります。日本人にとって古くから主食である米を納める大切な神事です。稲の収穫祭の中でも最も重要なのが伊勢神宮で行なわれている神嘗祭（かんなめさい）です。祭神である天照大神に捧げるこの行事は奈良時代に行なわれたという記録があります。その後途絶え、江戸時代初めに再び行なわれるようになります。そして、明治時代初めには古式にのっとり九月十七日に行なうことが定められました。ところが、明治六年に太陰暦から太陽暦に改められた際、太陽暦の九月十七日では稲が未熟なため、十月に変更されて十月十七日になったそうです。

神嘗祭に続いて、宮中と全国の神社で行なわれる新嘗祭（いなめさい）というお祭りがあります。新穀をご神前に捧げ、五穀豊穰を祈る行事で、毎年十一月に行なわれています。



このように、日本では稲の収穫を感謝する収穫祭は九月に神嘗祭、それを受けて十一月に新嘗祭が行なわれ、その後新しく収穫された稲をいただく、という流れになっていました。そして、その間の十月は特に行事がないのですが、新嘗祭という重い祭祀を前に、しっかりと準備を整えるという意味合いで「神の月」という名前が生まれたのかもしれない。

なお、「かんなづき」については、全国の神々が出雲大社に集まって、諸



国が「神無しになる月」だから「神無し月」と言うのだという考え方がありますが、俗説です。また、出雲国には、この考え方に基づいて十月のことを「神有月・神在月（かみありづき）」と呼ぶ言い方があるそうです。いずれにせよ、秋は収穫の季節。夏の日差しをたっぷり浴びて大地の力を含んだお米や野菜をじっくり味わいたいものです。

## 祭礼・祈禱などの案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次ページの電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話しくください。のちほどこちらからご連絡いたします。

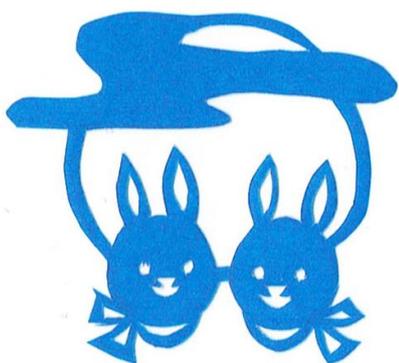
○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行なっております。祈禱日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉  
電話

携帯 ○三―三九一八―七九三〇

eメール ○八〇―一九八七―八七二六

daikokujinja@gmail.com



(連載まんが)

# 大吉うさぎ ～神社豆知識 その4～ くま こまち 作

○次回甲子祭  
平成二十九年十二月三日(日) 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで



## 次号発行予定

「だいきく通信第三十一号」、いかがでしたか。次号「秋の号」は、十二月三日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第三十一号 平成二十九年十月四日発行  
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇-〇〇〇三 東京都豊島区駒込三-二-十一  
<http://www.daikokujinja.org>